

あいくらぶ通信



目次

- P-1 ごあいさつ
P-2 人生を変えるヒント
終活生前準備講座
P-3 心にのこったご葬儀⑬
社長 年頭のごあいさつ
P-4 おすすめBOOK『ミツバチ大量死は警告する』
スタッフのつづき

写真：富士山朝霧高原「田貫湖」日の出 撮影：市川雅清

DATE カメラ:オリンパス OM-D E-M1 レンズ:オリンパス M.ZUIKO DIGITAL 12-40mm F2.8 PRO
絞り:F2.8 ホワイトバランス:AIWB シャッタースピード:1/(250)ISO感度:AIWB+1.0EV 補正:-2.0

伝説の警句「天災と国防」

著名な物理学者で夏目漱石の弟子でもある「寺田寅彦」氏は、「災害は忘れたころにやってくる」など、災害との向き合い方について数多くのメッセージを残しています。1934年に「天災と国防」という文章を「経済往来」に記しています。

文明の発達するに従って、災害は質・量ともに増大・増加していきます。更に文明が発達すると災害を封じ込むことができると考えがちですが、文明の発達とともに災害の要因は増えるので少々の災害対策で安心するな、自然をみくびるなど警告しています。例えば、福島第一原発のように、非常用発電機が作動しなかっただけで、全世界が震撼するような事態となります。以下に、「天災と国防」に中から、一部を引用してみます。一戦争はぜひとも避けようと思えば人間の力で避けられなくはありませんが、天災ばかりは科学の力でもその襲来を中止させるわけには行きません。最後通牒もなしに突然来襲するのである。それだから国家を脅かす敵としてこれほど恐ろしい敵はないはずです。たとえば、安政元年の大震災のような大規模のもの来襲すれば、東京から福岡に至るまでのあらゆる大小都市の重要な文化施設が一時に脅かされ、西半日本の神経系統と循環系統に相当ひどい故障が起こって有機体としての一国の生活機能が著しい麻痺状態を惹起（じゃっき）する恐れがある。（中略）こういうこの世の地獄の出現は、歴史の教えることから判断して単なる杞憂（きゆう）ではない。しかも、安政年間には電信も鉄道も電力網も水道もなかったから幸いであったが、次に起こる「安政地震」には、事情が全然ちがうということを忘れてはならない。――と記述があります。

また、寺田寅彦随筆集の中では、人間も何度も同じ災害にあっても決して利口にならぬものであることは歴史が証明する。そうして昔と同等以上の愚を繰り返しているのである。――と言っています。

今一度、寺田寅彦氏のメッセージを噛みしめ、これからの社会のあり方について、考えてみたいと思います。

平成28年1月7日 株式会社市川葬典 代表取締役会長 市川雅清

『ミツバチ大量死は警告する』

岡田幹治 Okada Motoharu: 著
集英社新書 定価：本体760円＋税

フリージャーナリスト。1940年、新潟県生まれ。一橋大学社会学部卒業。朝日新聞社ワシントン特派員、論説委員を経て2000年に定年退社。食の安全や環境問題、日本経済を主なテーマに取材・執筆を行う。

ミツバチは植物の受粉を手伝って森をはぐくみ、地上に命をつないでいた。神経が発達していて、環境のわずかな変化にも敏感に反応する。その意味で、ミツバチは私たちにとって、危険性を事前に知らせる「炭鉱のカナリア」のような存在であり、今日のミツバチの姿は将来の私たちを示しているともいえる。本書は、ミツバチをめぐる異変を出発点にして、研究者やマスメディアを巻き込んで作られた「安全神話」の実態を詳細にリポートしています。現在の日本で身を守るための必読書です。

スタッフ・つぶやき

◆また新しい年が始まりました。毎年毎年、あっという間に1年が過ぎてゆきます。1日を振り返ってもそうです。「行きます!」と玄関を出て、「ただ今!」と帰宅すれば「いただきます」「おやすみなさい」と、夢路へ……そして今年も多分、桜が咲き、花火を見上げ、落ち葉をかき集め、お正月の準備を心配し、とあっという間の1年を過ごすのでしょうか。茶房月光庵を今年もどうぞよろしくお願いいたします。 林千代子

◆大学時代の友人から結婚式の招待状が届きました。その友人は私が大学に入ってから出来た最初の友人です。その彼が寮のお祭で一緒にコント劇をやろうと言いだし、集まったメンバーは今でも仲の良い友人達です。彼のおかげで私の大学生活は楽しいものになったのでとても感謝しています。私や先輩の結婚式に呼ばれていた彼が今度は招待する側となりました。どんな相手なのか、どんな馴れ初めだったのか。彼の幸せな顔を見れる事が今から楽しみです。 岩瀬 智康

♣世の中には、無数の宗教があります。一般的に、「仏教」＝「普通」と言った考え方があります。国民性からでしょうか？多数派が標準となり、少数派が「変ってる??」と思われるようで、私には、とても興味深い考え方です。実は、宗教を少し紐解いてみると、「似ている!」と思う事があります。「変っている??」で済ませずにどこが違うのか？どこが同じか？調べてみると解り合えるのでは??と思います。信仰は、人それぞれ…真剣に信仰している方は素敵に見えます。という私は…日々精進致します！

中嶋 真睦

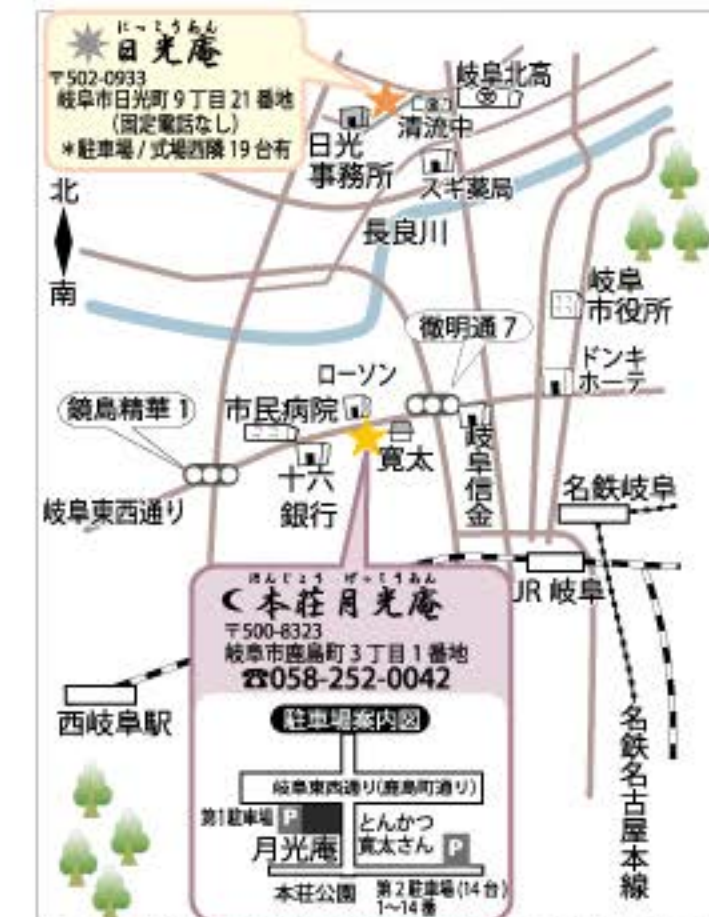
◆ 昨年の7月よりスタッフになりました。日頃は日光庵で「茶房日光庵」で、美味しいコーヒーを淹れてお待ちしておりますので遊びに来て下さい。先日、日光庵のお通夜、ご葬儀で駐車場案内のお手伝いさせて頂いていた時、クラブ活動が終わった生徒さんが家に帰る際、「こんばんは・おやすみなさい」と声をかけてくれました。屈託のない挨拶で心も癒され、爽やかな気持ちになり改めて挨拶は大切だな！と思い、私も恥ずかしがらずに挨拶のことばを心がけたいです。 高井 孝子

編纂事務局

岐阜県岐阜市本町3丁目18番地
0120-00-4243

<http://www.ichikawa-souten.jp>

☆【岐阜市家族葬】で検索！



【タクシー】JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅より、距離 2km、所要時間約 5 分です。

【バス】JR岐阜駅前7番のりば（G線島ルート）乗車、
「本荘」バス停下車後徒歩1分です。

「やわらぎの家族葬」貸切型セレモニーハウス



有限会社 ファーイースト

心にのこるご葬儀を……



株式会社市川葬典

〒500-8034 岐阜市本町3丁目18番地
TEL 058-262-0042 FAX 058-265-3644

次号は2016年4月1日発行です **お楽しみに!**

自分の人生を自分らしく、美しく完成させるための…終活「生前準備」講座 市川雅清

教養講座 第3章

人生を変えるヒント

(3)「家族葬」メリットとデメリット、その2

現代では、古くからのしきたりに必ずしもこだわらずにすむようになり、お葬式もいろいろな形を選択することができるようになりました。家族葬というお葬式は、こうした時代だからこそできるようになったと言えるでしょう。

いいところがたくさんある一方で、まだ社会になじんでいない部分もあります。だから、いろいろなことに注意をして、葬儀を進めていかなくてはなりません。

「家族葬」のいいところ

- ① 故人とのお別れの時間をじっくりと過ごすことができ、精神的にも体力的にも遺族の負担が少ない。
- ② お葬式の費用についても、ある程度軽減することができる。

通常のお葬式では、たくさんの参列者が来るため、遺族は気を使わなければならないで、くたびれてしまうことが多いようです。参列者の対応に追われて、故人とのお別れがじっくりできないということもあります。そんな遺族の負担を精神的にも金銭的にも軽減することができるのが家族葬のメリットと言えるでしょう。

「家族葬」で注意しなければならないこと

- ① 葬儀が終わってから、亡くなったことを知った人たちが、週末のたばにお悔やみを述べに自宅まで来てしまい、遺族がその対応で疲れてしまう。
- ② 親戚などが「家族葬なんて、とんでもない。」と言いたし、もめてしまう。
- ③ 後で亡くなったことを知った人が「どうして、教えてくれなかったんだ。」と不満を言う。
- ④ 参列者を呼ばない予定だったが、式の日時を知って参列に来てしまう人がいて、その対応に追われてしまう。
- ⑤ 参列者の数に応じて、香典の金額も減るので、結果的に高くつくこともある。

こうしたことを避けるためには、死去の知らせとともに、事情（故人の遺志で、遺族の考えなどで）により家族葬で行うので、参列をご遠慮いただき、香典も辞退する旨をつたえることが必要です。

葬儀まえに、こうした内容を書いた文面をファックスなどで、関係者に送っておくといいい

しょう。ただ、急なことでこれが間に合わなかった場合などは、葬儀を終えたらすみやかに、ハガキなどで同様の内容をお知らせして下さい。

また、説得が難しい親戚などについては、早めに相談しておくトラブルになりやすいようです。

とはいえ、大切な家族を亡くした悲しみの中で、こうしたやり取りをする余裕のないこ

ともあると思います。納得のいく家族葬を実現させるためには、できるだけ具体的なプランを生前から練っておきましょう。

お葬式というものは、人生の最後しめくくる、大切な儀式です。たった一度のやり直しのきかない儀式です。一見、意味のないと思える古くからの「しきたり」にも、実は深い意味があることも忘れてはなりません。お葬式には、そうした日本人の昔からの知恵がたくさんつまっているのです。

家族を失う悲しみに中で、先々のことを考えるのは大変だと思いますが、後悔のないようにして下さい。

次回、第17号の予告

第3章 教養講座

(4) 広がりつつある日本郵便の「送骨」について考えてみましょう。

お楽しみに…



●自己紹介（いちかわまさきよ）
1955年生・B型・おうし座
一般葬祭ディレクター
技能審査協会審査官
ライフ終活アドバイザー
趣味/写真・登山・心学研究
座右の銘/単純、明快、矛盾なし

心にのこった…ご葬儀 ⑬

「ぽっかりと空いた心の隙間」 残された者ができること…

70歳後半のA様、ご夫妻はお二人とも障害をもっていらっしゃいました。とても仲の良いご夫婦でしたがお子様はみえませんでした。

A様は半年程前、奥様を病気で亡くされ、その後ヘルパーさんの訪問、デイサービスの利用やお仲間の月に一回の訪問など、奥様を亡くされた淋しさはあったと思いますが、なんとかお一人で生活されていたのだと思います。しかしある日突然、自ら命を絶たれてしまったのです。

「体力・生きていく気力がなくなりましたので、自分の力で実行できるうちにいきます。ヘルパーさん達、大変お世話になりました。」遺書は、たった3行の文章でしたが、しっかりとした文字で残されていました。遺書を手にとった私の心は、真っ黒になり、ずんと重く沈みました。

しかし、そこには、自死を否定できない自分がいたのです。「もう淋しくないですね。辛くないですね。不安じゃないですね。奥様に会えて、本当に良かったですね。」と大きな声で声を掛けてあげたかった…A様を認めてあげたい気持ちでいっぱいでした。

ご納棺は、ご親戚の皆様が通夜の準備にいったん戻られる間に、私どもですることになりました。偶然にも、奥様のご葬儀の時私が担当致しましたので、まるで身内のような辛い気持ちで、A様

に声をかけながら、心を込めてご納棺させていただきました。

ほどなくすると

担当のヘルパーさんも駆けつけてくださいました。A様のことをお聞きすると、前日も変わった様子はなく、ご友人と会う約束をして、デイサービスの行事の参加費を納め、カレンダーに予定を書き入れていらしたそうです。

A様はおそらく、まだ、頑張って生きていくつもりはあったのだと思います。しかし、年の瀬の寂しさや人恋しさが迫ってきて、ふと、一人でいることに耐えきれなくなれたのかもしれない。

自死ではあるもののA様は、微笑みほんとうに穏やかな表情をされていました。あちらでは、きっと亡き奥様とまた仲良く過ごされていることでしょう。

A様の「ご葬儀」は、多くの事を感じ、考えさせられたご縁でした。ご親戚やご友人がみえても大切な方を亡くされた、埋めることのできない虚無感や、残された人の淋しさ・辛さ・悔しさは想像しきれぬものではありません。それでも残された者が出来る事。葬儀社としてお手伝い出来る事が何かあるのではないかと考えてしまいます。

ご冥福をお祈り致します。

久美子

Column

新年明けましておめでとございます。

皆様は、おせち料理を召し上がられましたか？おせち料理のルーツですが元々は年に五回ある節句（三月三日や五月五日など）に、神仏にお供えした「御節料理」が転じたものと言われております。祝いの意味合いもありますが、「お正月の三が日はくらは女性をゆくりさせてあげたい」と言う先人の方の知恵もあつたようです。ただ、私の生まれ育った北海道には内地（北海道民は本州の事を内地と呼びます）のような、おせち料理の文化はなくお正月も普通の食生活で過ごします。メインは大晦日です。大晦日には親戚縁者が集まり、どこかの家でもジンギスカンと手巻き寿司を食べながら年を越します。子供の頃から「年越しそば」を食べた記憶がありません（一応、北海道はそばの産地でもあります）このように北海道には内地から入って来ない文化や、アイヌ民族から継承された文化もたくさんあり、私自身も東海地方に来てびっくりした文化もたくさんありました。また女性には元旦の外出を控えるため、一月一日の午前中は男性だらけです。そうそう、皆様は元旦と元日の違いを御存じですか？元旦は一月一日の正午まで、元日は一月一日全てを指します。皆様のふるさとでは、どのように年を越し、どのように新年を迎えられますか？

取締役社長 坂上一己

●社長自己紹介（さかがみかずみ）1965年生・A型・てんびん座
一般葬祭ディレクター 貨物事業運行管理者
趣味/寺仏園巡り。松山千春さんの歌を聴きながらドライブをすること。
座右の銘/男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく。
大切にしているもの/時間・規律・秩序